

4 みちづくりに関するニーズ

(1) みちづくりに関する市民ニーズ

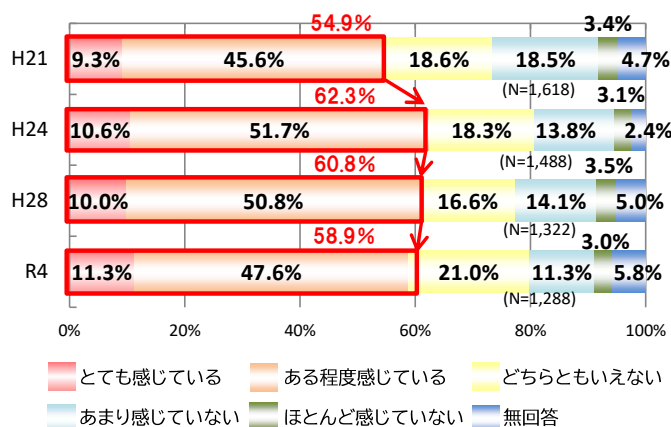
本市では、市民の意識と市民の行政施策に対する評価・要望等を把握するための市民意識調査と、本市のまちづくりに関する企業の満足度調査を毎年実施しています。

【市民対象調査結果】（平成21年、平成24年、平成28年、令和4年の結果を抜粋）

「市内の車での移動が便利である」と回答された割合は、約6割となっています。一方で「車での移動が便利ではないと感じている理由」としては、道路の渋滞が多いことが挙げられており、交通渋滞対策が求められています。

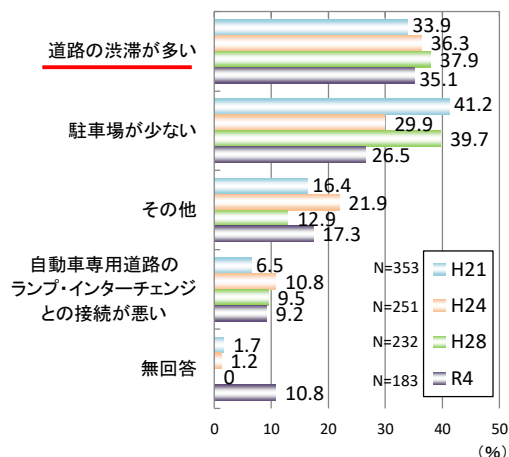
【市民対象調査】設問内容①

市内の車での移動は便利であると感じますか。



【市民対象調査】設問内容①-1

車での移動が便利ではないと感じている理由

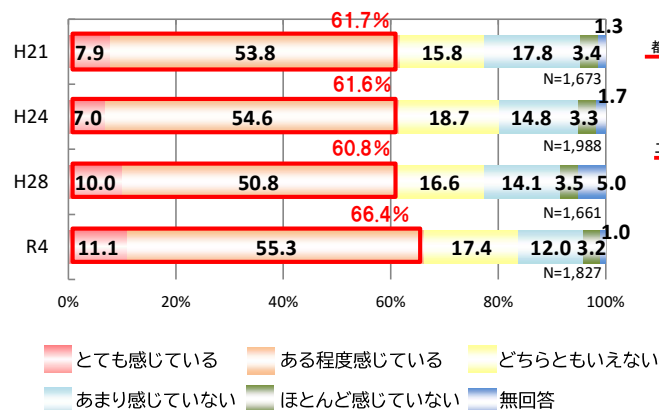


【企業対象調査結果】

「交通・物流インフラが十分整備されている」と回答された割合は、6割以上で増加傾向にあります。一方で「インフラが十分整備されていない理由」としては、幹線道路や都市高速道路、空港へのアクセスの整備が不十分であることが挙げられており、幹線道路等の整備促進が求められています。

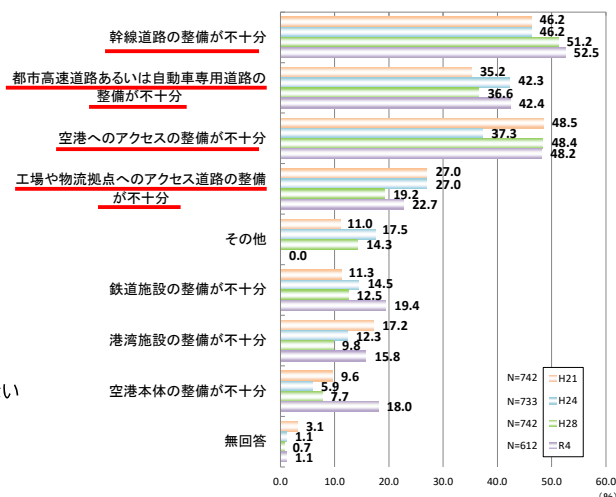
【企業対象調査】設問内容①

市内の道路、港湾、空港等の交通・物流インフラが十分整備されていると感じますか。



【企業対象調査】設問内容②-1

整備されていないと感じている理由



参照：市民意識調査、市政満足度調査

【道路利用者の意見(令和4年度～5年度)】

製造業、物流業等の企業や福祉団体からみちづくりに関するニーズを把握するために、道路利用者へヒアリングを実施し、幅広くご意見をお伺いしました。

<ヒアリングにおける主な意見など>

●企業(製造業、港運業、物流業 計9社)

- ・黒崎バイパスの整備(春の町ランプ開通)により国道3号の混雑が緩和され、利便性が向上した。
- ・工場周辺の生活道路における歩道の整備等の安全対策が必要。
- ・新門司地区や北九州空港へのアクセス強化が課題。

●北九州市福祉のまちづくりネットワーク

- ・視覚障害者用誘導ブロック付近の舗装に凹凸があると判別できないため、可能な限り舗装の凹凸を減らして欲しい。
- ・固定式グレーチングのボルト部には、杖がはまらないよう蓋等の処置が必要。
- ・立体横断施設のエレベーターにおいては、聴覚障害者への規定(故障した場合は、そのことが伝わるよう、自動的に表示する等)を考慮して欲しい。

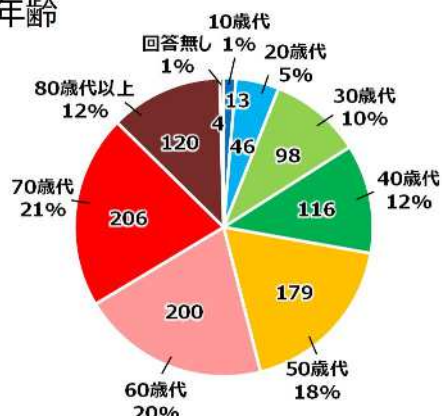
【市民アンケート調査(令和6年10月)】

本計画の策定に際し、多くの市民の方々のご意見を計画に反映するため、市民アンケートを実施しました。

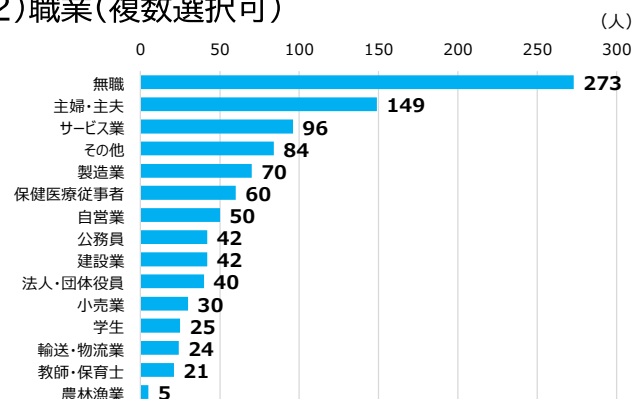
<アンケート調査概要>

実施期間 : 令和6年10月15日～10月31日
 対象者 : 18歳以上の北九州市民から無作為抽出した3,000人
 実施方法 : 郵送、インターネット回答
 アンケート回収状況 : 982件(回収率:32.7%)

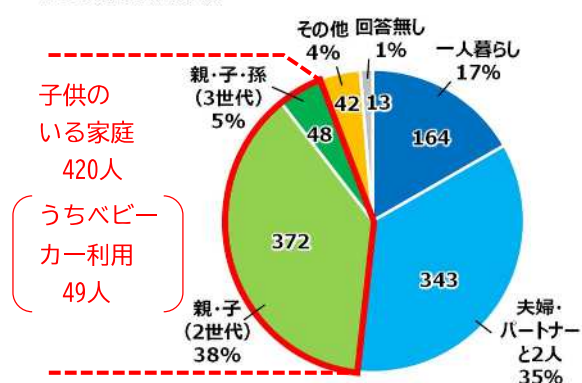
(1)年齢



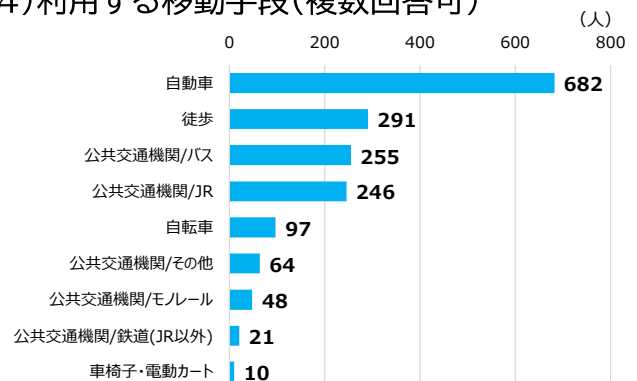
(2)職業(複数選択可)



(3)家族構成

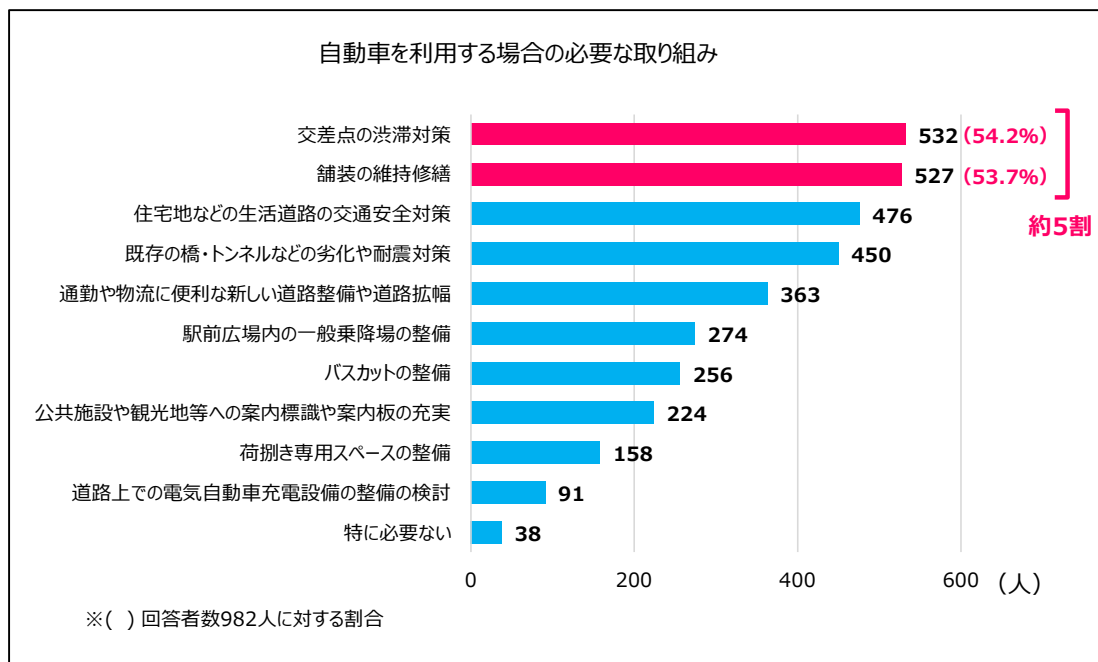


(4)利用する移動手段(複数回答可)



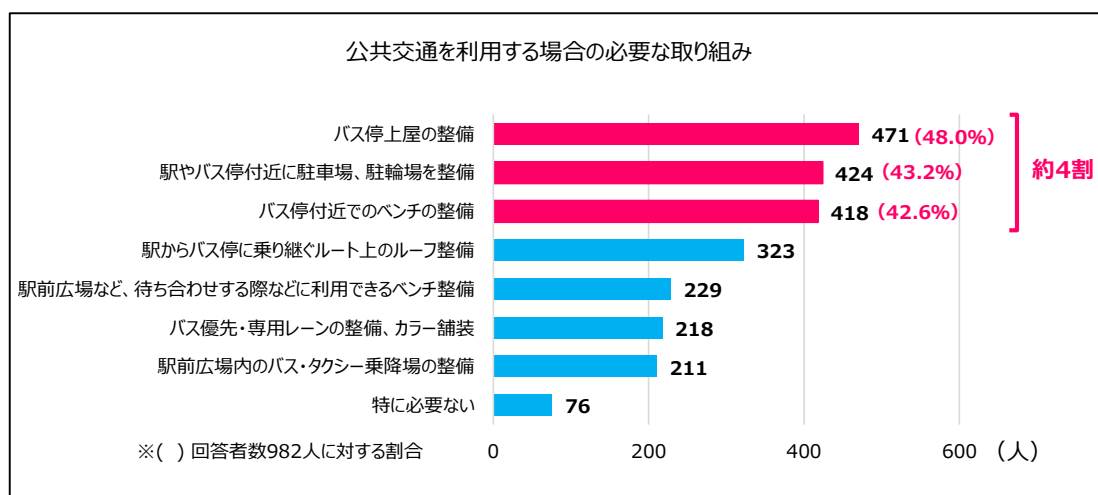
設問1 自動車を利用する場合に必要な取り組みについて（複数回答可）

- ・全体の約5割が「交差点の渋滞対策」「舗装の維持修繕」が必要であると回答しています。特に、自動車利用者が「交差点の渋滞対策」「橋などの劣化や耐震対策」「舗装の維持修繕」「生活道路の交通安全対策」が必要と回答しています。
- ・職業別では、建設業、輸送・物流業の約7割が「交差点の渋滞対策」、約5割が「新しい道路整備や道路拡幅」が必要であると回答しています。
- ・その他の取り組みについても、必要であるとの回答が得られました。



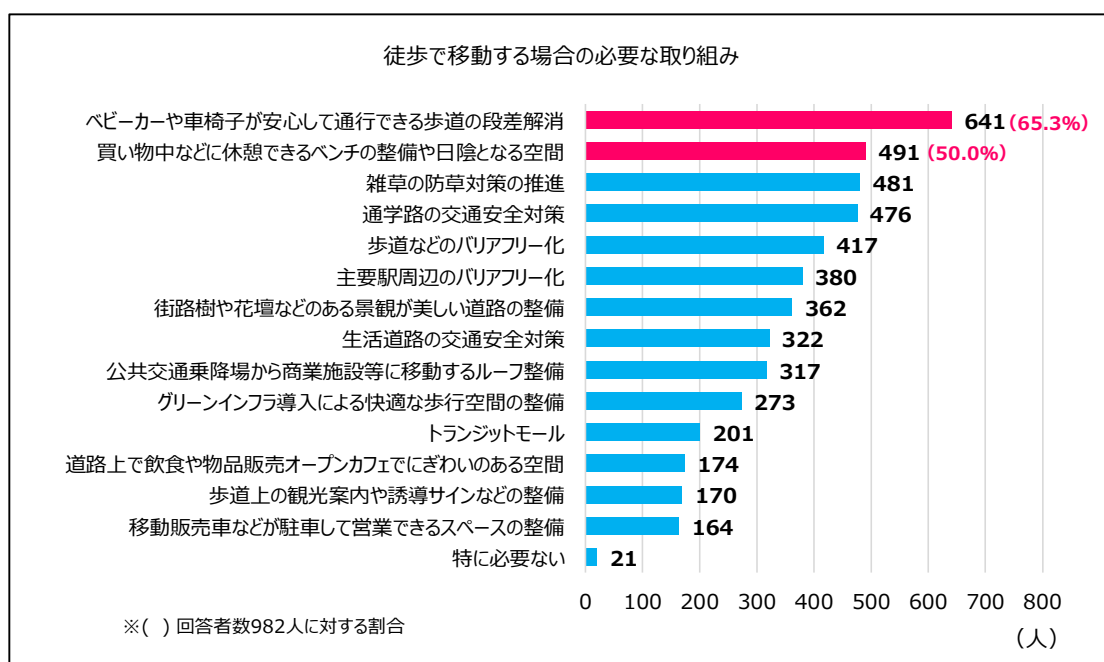
設問2 公共交通を利用する場合に必要な取り組みについて（複数回答可）

- ・全体の約4割が「バス停付近でのベンチの整備」「バス停上屋の整備」「駅やバス停付近での駐車場、駐輪場の整備」が必要であると回答しています。
- ・移動手段別では、公共交通の利用者の約5割が「バス停上屋の整備」が必要であると回答しており、そのうち約5割がバス利用者でした。
- ・JR 利用者、車椅子、電動カートの利用者の約4割が「駅からバス停に乗り継ぐルート上のルーフ整備」が必要であると回答しています。
- ・その他の取り組みについても、必要であるとの回答が得られました。



設問3 徒歩で移動する場合に必要な取り組みについて（複数回答可）

- ・全体の約6割が「歩道の段差解消」が必要だと回答しています。特に 50 歳以上の方の約 7 割、ベビーカーの利用者の約8割、車椅子、電動カートの利用者の10割が「歩道の段差解消」が必要だと回答しています。
- ・全体の約5割が「買い物中などに休憩できるベンチの整備」が必要と回答しており、特に 60 歳以上の方が必要と回答しています。
- ・50 歳以上の約 5 割、車椅子、電動カートの利用者及び徒歩移動の方の約4割が、「駅周辺や歩道のバリアフリー化」が必要であると回答しています。
- ・全体の約5割が「防草対策」が必要であると回答しています。
- ・家族構成別では、子育て世代の約6割が「通学路の交通安全」が必要と回答しています。
- ・その他の取り組みについても、必要であるとの回答が得られました。



設問4 自転車で移動する場合に必要な取り組みについて（複数回答可）

- ・全体の約7割が安全に通行できる「自転車通行空間(自転車レーンなど)」の整備が必要であると回答しています。特に自転車利用者の約9割が「自転車通行空間の整備」が必要であると回答しています。
- ・車椅子、電動カートの利用者の約5割が「放置自転車の対策」が必要と回答しています。
- ・その他の取り組みについても、必要であるとの回答が得られました。

